

Sustainable Report No.146

廃棄物に命を吹き込む アート・商品開発

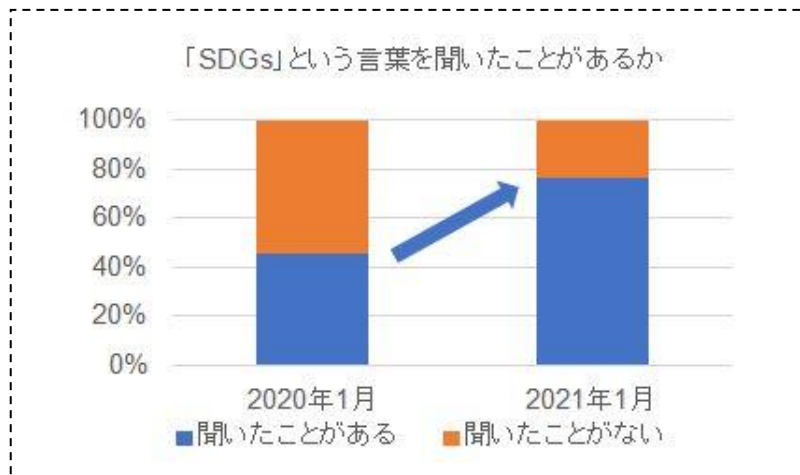


Satisfactory

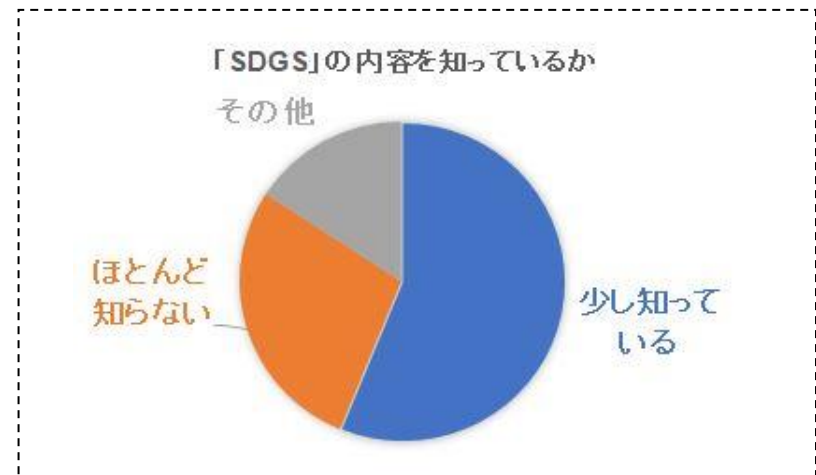
■ 認知度と、実際の活動との乖離

- 全国5,000人を対象とした調査で、**「SDGsに特に取り組むことは考えていない」**と約半数が回答。
(2021年12月、朝日新聞社実施『第8回SDGs認知度調査』より)
- これは、政府やメディア、企業の努力が、SDGsという**言葉の認知までに偏っている**からではないか。
- レジ袋の規制と同様に「取り組みやすい環境は国が整えてくれる」と**消費者側が無意識に受け身の姿勢**をとり、自発的な行動に発展しづらいと考えられる。

■ 「SDGs」の言葉の認知度



■ 「SDGs」の内容浸透度



出典：左右ともに朝日新聞『SDGs認知度調査 第8回報告』をもとに筆者作成

消費者の行動が表れる廃棄物を、“不要品”から“資源・材料”へ

■ 廃棄物を活かすアートと、その発信方法

- 2010年、瀬戸内国際芸術祭において、屋外常設展示作品「宇野のチヌ」が漂流物で制作された。
- 視覚・感性に訴える展示は、**住民からの不要品の提供**を受け、3年毎の部品交換も実施。
- アーティストの淀川テクニク氏は、「**みんなで行うごみ拾い過程もアートだ**」という考えのもと、漂流物やゴミに命を宿し続けている。
- 制作段階のみならず鑑賞段階においても、**ただのアート鑑賞に留めず、「特定の人に限定せず誰でも参加可能」との情報発信**がさらなる行動を促すのではないか。

■ 宇野のチヌ/淀川テクニク



画像提供：玉野市産業振興部商工観光課 瀬戸芸推進係

■ その他の廃棄物アートたち

- ◆ 『One Beach Plastic』 (1999年～)
北カルフォルニア国立海岸で集めたプラスチック破片のアート
制作：リチャード・ラング、ジュディス・セルビー・ラング
- ◆ プラスチックごみの作品展示『ごみプロジェクト』
海の漂流物やプラスチックごみを使用したアート
制作：崇城大学
- ◆ 『ゴミ置き場をアートにするプロジェクト』 (2006～)
「ゴミ問題を遊ぼう！」をテーマにしたプロジェクトを展開
制作：GARBAGE BAG ART WORK
- ◆ 『Les Creations Messageres』 (メッセージが込められたクリエイション)
廃棄ビニール袋やメイクブラシからオリジナルフラワーを制作
制作：ウィリアム・アモール

より実生活に浸透させる手段とは

■ 筆者が惹かれた事例



ビニール傘の再利用製品 『PLASTICITY』

企業：株式会社モンドデザイン
概要：
ビニール傘が持つ防水性や汚れの耐性を活かし、バッグや小物を制作

出典：PLASTICITYホームページ



おがくずねんど 『もくねんさん』

企業：北星鉛筆株式会社
概要：
鉛筆製造時に出るおがくずを粘土に再生、原料が木のため土に還すことが可能

出典：北星鉛筆株式会社ホームページ

■ ファッション関連事例

◆ 『メカジキジーンズ』

企業：有限会社オйкаワデニム
概要：廃棄対象だった角からできた糸をデニムの約40%に使用

◆ 『UpcycleLino』（アップサイクルリノ）

企業：株式会社ネキスト
概要：裁断くずが原料の衣料をブランド『nest Robe』にて展開

◆ 『BODYCOOLER 汗すぐサラリTシャツ』『リサイクルな靴下』

企業：株式会社イトーヨーカ堂
概要：衣料抽出素材、再生ポリエステル「RENU」を使用

◆ 『saisilk』（サイシルク）

企業：株式会社バイセルテクノロジーズ/クラブウ
概要：中古着物をシルク原料に戻し、ニットやデニムに再生

◆ 『FRUU..』（フルー）

創設者：Terence
概要：コスメの主な原料に廃棄果物を使用し安価に販売

■ より実用的な事例

◆ 茶配合ボード/茶配合樹脂

企業：株式会社伊藤園
概要：生産時に排出される茶殻を原料として建材や樹脂を製造

◆ コーヒーかす飼料

企業：スターバックスコーヒージャパン株式会社
概要：豆かすを堆肥に商品原料を生産

◆ 『REAMIDE』（リサイクルナイロン樹脂）

企業：株式会社リファインバース
概要：廃漁網100%活用した当該樹脂でサングラスを製造

◆ 『かつとばし！！』

企業：株式会社 兵左衛門
概要：破損木製バットや破材を用い、箸に再生

◆ 『tumugu』

事業者：土井裕美
概要：廃校備品を家具に再生、ネット販売を行う商品ブランド

■ 改善すべきは情報発信方法

- SDGsの取り組みを「特別な活動」のように扱うメディアが多く、「意識ある人が行うもの」という誤った認知を与えている可能性がある。
- 消費者の多くが「私にもできる」と身近に捉え、日常に取り入れていく形が理想。
- 企業も、商品やサービスの発信において全面的にSDGsを掲げるのではなく、「アートの材料として廃棄物を選択、その結果SDGsに繋がった」のように、それ自体の魅力や手軽さにまずフォーカスが必要。

■ これまでの発信順序

- ① SDGsが未来のため重要な取り組みと案内
- ② SDGsとは何かの説明
- ③ 活動の紹介
- ④ 行う人・企業・団体の説明
- ⑤ 実施者の環境に対する考えのインタビュー
- ⑥ 紹介した活動への考察交換

環境問題を前提に、「すごい」「自分たちも行わなければいけない」という意見が多くなり、特別な印象を与えてしまう。

■ 望ましい発信順序

- ① 活動の紹介
- ② 行う人・企業・団体の説明
- ③ 紹介した活動への考察交換（「面白い」「やってみたい」など、活動に対する率直な意見交換）
- ④ 実施者の活動に対する考えのインタビュー
- ⑤ 活動が環境に与える効果・影響の紹介

「SDGs」という言葉は全面に出さず、より視聴者に親しみやすい形で発信する。

SDGsに配慮した商品を「普通」と捉えられる世界づくり

■ 参照・引用資料

- 朝日新聞社, 「【SDGs認知度調査 第8回報告】SDGs「聞いたことがある」8割に急伸」,2022年2月14日 (URL : https://miraimedia.asahi.com/sdgs_survey08/)
- 玉野市, 「瀬戸内玉野観光ガイド」,2022年4月参照 (URL : <https://tamanokankou.com/spot/324/>)
- ユカリアート, 「淀川テクニク」,2022年4月参照 (URL : <https://yukari-art.jp/jp/artists/yodogawa-technique/>)
- ワンビーチプラスチック, 「About One Beach Plastic」,2022年4月参照 (URL : <https://beachplastic.com/>)
- 崇城大学, 「プラスチックごみの作品展示『ごみプロジェクト』～環境問題を芸術で表現～」,2019年6月17日 (URL : https://www.sojo-u.ac.jp/news/press/2019/190617_003686.html)
- GARBAGE BAG ART WORKホームページ,2022年4月参照 (URL : <https://www.gba-project.com/>)
- creationsmessageres, 「BLOOMING SOON」,2022年4月参照 (URL : <https://www.creationsmessageres.com/>)
- PLASTICITYホームページ,2022年4月参照 (URL : <https://plasticity.co.jp/>)
- 北星鉛筆株式会社, 「もくねんさん美術館」,2022年4月参照 (URL : <http://www.kitaboshi.co.jp/mokunen/>)
- つると合同会社, 「OIKAWA DENIM」,2022年4月参照 (URL : <https://www.tsuruto.com/oikawadenim>)
- 株式会社ネキスト, 「UpcycleLino / nest Robe」,2022年4月参照 (URL : <https://store.nestrobe.com/nestrobe/customlist?id=136>)
- 循環経済新聞, 「衣料品19万点以上を回収」,2022年3月21日
- 循環経済新聞, 「中古着物をシルク原料に戻す」,2022年3月28日
- FRUU..ホームページ,2022年4月参照 (URL : <https://fruuurskin.com/>)
- 株式会社伊藤園, 「茶殻リサイクルシステムとは?」,2022年4月参照 (URL : https://www.itoen.co.jp/ochagara_recycle/about/index.html)
- スターバックスコーヒージャパン株式会社, 「スターバックスが挑戦し続けるリソースポジティブの活動がさらに進化」,2021年6月22日 (URL : https://www.starbucks.co.jp/press_release/pr2021-4138.php)
- 循環経済新聞, 「廃漁網をサングラス素材に」,2021年6月21日
- 株式会社 兵左衛門, 「折れたバットをリサイクル かつとぼし!!」2022年4月参照 (URL : <https://ssl.hyozaemon.co.jp/nihonbo/items/bat.html>)
- tumugu upcycle furnitureホームページ,2022年4月参照 (URL : <https://www.tumugu-upcycle.work/>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先： info@sfinter.com



株式会社サティスファクトリーは、SDGsに係る人材教育プログラム『**KIZUNA ESD**』を企業に提供しております。全ての従業員によるサステナブルレポート作成やSDGs映画上映会の実施など、各種運用の導入と内製化を支援いたします。

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

—— サステナブルレポートとは？ ——

サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマをとりあげ、サティスファクトリー社員が調査報告書を作成・発信しています。



全従業員で
毎週更新中